

ソーシャル・キャピタルがクラウドファンディングに及ぼす影響の研究

—COVID-19 の感染拡大下における飲食店支援の観点から—

瀬戸久美子 (Kumiko SETO)

Keywords : ソーシャル・キャピタル、クラウドファンディング、フィンテック、COVID-19

1 目的

本研究は、経済協力開発機構 (OECD) が提案するソーシャル・キャピタルの 4 つの領域が、クラウドファンディングを通じて窮地に立たされている他者を支援したいという人々の意向に与える影響を分析することを目的とする。

2 方法

一般市民を対象にアンケート調査を実施し、OECD が示す「個人的ネットワーク」「社会的ネットワーク・サポート」「社会参加」「信頼と協調の規範」というソーシャル・キャピタルの 4 つの領域と、新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大下における人々の飲食店支援プロジェクトへの金銭的支援意向との間にある因果構造モデルを、共分散構造分析により推定した。

3 結果

分析の結果、「市民参加→クラウドファンディングの支援意向」「信頼と協調の規範→クラウドファンディングの支援意向」「個人的ネットワーク→社会的ネットワーク・サポート」「市民参加→信頼と協調の規範」のパスには統計的に有意な正の関係が見られたが、「個人的ネットワーク→クラウドファンディングの支援意向」「社会的ネットワーク・サポート→クラウドファンディングの支援意向」のパスについては有意差が認められなかった。

4 結論

以上の分析結果から 3 つの知見を得ることができた。第 1 に、「市民参加」と「信頼と協調の規範」という公的ソーシャル・キャピタルに該当する領域が、COVID-19 の感染拡大下におけるクラウドファンディングを通じた飲食店の支援意向に正の影響を与えることが示唆された。第 2 に、私的ソーシャル・キャピタルの構造的領域である「個人的ネットワーク」と、その成果や資源である「社会的ネットワーク・サポート」が支援意向に正の影響を与えるという仮説は立証できなかった。第 3 に、私的ソーシャル・キャピタルの構造的側面である「個人的ネットワーク」が私的ソーシャル・キャピタルの資源的側面である「社会的ネットワーク・サポート」に、公的ソーシャル・キャピタルの構造的側面である「市民参加」が公的ソーシャル・キャピタルの資源的側面である「信頼と協調の規範」に正の影響をもたらすことが明らかになった。本研究は、ソーシャル・キャピタルの側面からクラウドファンディングの支援者予備軍の特徴を分析することで SDGs が掲げる「誰ひとり取り残さない」(Leave No One Behind) 社会の構築に向けた実践的示唆を与えるとともに、クラウドファンディングの研究に学術的貢献をもたらすものであると考える。

【主要参考文献】

- Putnam, R. D., Leonardi, R., & Nanetti, R. (1993). Making democracy work: Civic traditions in modern Italy. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Scrivens, K., & C. Smith. (2013). Four Interpretations of Social Capital: An Agenda for Measurement. OECD Statistics Working Papers, 2013(06), Paris: OECD Publishing.